

藤井寺市公共施設再編基本計画（素案）に対するパブリックコメント実施結果

昨年度策定した公共施設等総合管理計画に基づき、公共施設の再編を行うことを目的として作成を進めている「藤井寺市公共施設再編基本計画」の素案について、パブリックコメントを募集しました。その結果と、提出された意見に対する市の考え方を公表します。

なお、取りまとめの都合上、いただいたご意見は適宜要約しております。また、パブリックコメントの対象事項についてのみ考え方を示しております。

頂いたご意見を参考に今後も検討を進めてまいります。ご意見をお寄せいただきました皆さまに御礼申し上げます。

○ 意見募集期間

平成29年1月4日～平成29年1月31日

○ 提出方法及び意見件数

持参：21件（5名から） メール：28件（5名から） FAX：22件（4名から） 計71件

	項目	ご意見	市の考え方
1	計画策定の目的	計画策定の目的では「施設の統廃合、複合化、機能の集約など」とあるが、7ページの公共施設マネジメントの取組の柱では「施設の多機能化（集約化・複合化）や統廃合、用途の転換等」となっており、表現内容に不一致があるので統一すべき。とりわけ「用途の転換」は、この部分だけにあるものの、他の部分では具体的な表記がない。	○施設の再編については、多機能化、統廃合、用途の転換だけでなく、広域利用や民間移管など多くの手法があると考えますが、表現が統一されていなかったため、ご指摘を踏まえ、1ページの説明文を「施設の多機能化（集約化・複合化）や統廃合、用途の転換等、効果的な公共施設の再編を進める」に修正します。 ○用途の転換については、今後、個別施設の再編を進めていく際の「他施設への機能移転」「機能の見直し（転用）」など再編手法の1つとなります。
2	計画の対象施設	平成26年度末時点の保育所に第2保育所が含まれていないのはなぜか。	○第2保育所については、平成26年度末時点で道明寺こども園に移行することが決まっていたため、本計画の対象外としています。
3	計画の対象施設	「小学校」「駐車場・駐輪場」「車庫」「計」の延床面積の数値が、各施設の合計値と一致していないのはなぜか。	○図や表の数値については、四捨五入の関係から合計値と各施設の数値の合計が一致しない場合があります。いただいたご意見を踏まえ、「四捨五入の関係から合計値と個別の数値の合計が一致しない場合があります」と追記します。
4	計画の対象施設	広域行政による分担金の対象となる「柏羽藤環境事業組合」「柏羽藤消防組合」「大和川右岸水防事務組合」「柏原藤井寺学校給食組合」を対象としていないのはなぜか。	○一部事務組合で運営している施設については、一部事務組合が自ら計画を策定する必要があります。また、構成する複数自治体で施設のあり方を検討していく必要があることから、本計画の対象外としています。
5	本市の目指すまちづくり	将来像の実現のため、「住みたいまち」「訪れたいまち」「住み続けたいまち」を目標としているが、公共施設再編方針や個別施設の再編の方向性からは将来像が「住みたくないまち」になるように思います。公共施設は統廃合をして民間にゆだねるのでは、本来の地方自治ではなくなります。	○今後も市が担う部分と民間活力を活用する部分を工夫をしながら再編を進めることで、市民サービスの向上を図りながら将来負担の軽減を目指すことが目的であり、地方自治をなくすことでは決してありません。ご理解をいただきますようお願いいたします。
6	今後の人口動向	行政サイドで住みやすい、子育てしやすい藤井寺にするにはどうすればいいかと前向きに検討されることが必要ではないでしょうか。今後は、職員と市民が共に後退の道をだどることをやめて、時間をかけて前向きに指導して下さい。また、何よりも子どもを産める施設をつくるのが先決課題だと思います。	○公共施設の再編は、今後の人口動向、財政状況など厳しい社会経済情勢においても、公共施設の維持管理を工夫することで市民ニーズに適切に対応することを目的としています。ご意見のように、ただ廃止、統合、売却することだけが目的ではなく、様々な手法を検討しながら少しずつ施設を集約する中で市民の皆様の満足度を向上していきたいと考えていますので、ご理解をお願いいたします。
7	今後の人口動向	将来人口について、平成57年に53,790人としているが、同時期に策定を進めている都市計画マスタープランでは「人口の減少は地域経済や市民の暮らしなどに様々な影響をもたらします。そこで、本市では将来を見据えた人口減少対策を現時点から取り組むことによって、減少を可能な限り抑制し、持続可能なまちづくりをめざすものとします。このため、第五次藤井寺市総合計画の目標年次である平成35年の目標人口を「65,000人」と設定します。」と掲げています。この計画こそが将来展望を示すものです。公共施設再編に関する市民説明会では「人口が増えれば計画を見直す」と言われましたが、個別施設の再編の方向性において、短期で廃止、統合、他施設への機能移転	○本計画については、人口ビジョンや都市計画マスタープランのように目標人口を設定していない点をご理解ください。今後、確実に人口減少が進むことが想定される中で、公共施設についてどうあるべきかを検討していくための計画であることへのご理解をお願いします。その上で、今後の人口動向については、市民説明会においてもご説明させていただきましたが、公共施設マネジメントの考え方の前提となる持続可能性の観点から、国立社会保障・人口問題研究所から出されている人口推計値を採用しています。ご意見のように、他の取組み等において状況が変化する場合については、適宜見直しをいたし

	項目	ご意見	市の考え方
		等が進んでいけば、「計画を見直す」時に多額の負担が生じ、とりかえしのつかないことになります。「都市計画マスタープラン」に沿った計画が必要です。	ます。 ○個別施設の再編の方向性については、長期的な視点でみた現時点での方向性を示したものとなりますが、今後、個別施設の再編を進めていく際には、社会経済情勢の動向を十分に踏まえて、さらに詳細に検討を進めてまいります。
8	公共施設の更新費用の見込み	「過去5年間の投資的経費（公共施設＋道路・橋梁）の年平均6.84億円」及び「今後30年間の公共施設の投資額の年平均4.18億円」の算出資料の掲載がないのはなぜか。	○公共施設の更新費用見込みの試算方法については、上位計画である公共施設等総合管理計画の14、25ページに記載しておりますので、掲載を省略させていただいております。
9	公共施設の更新費用の見込み	公共施設等総合管理計画の15ページの図と比較して、「大規模改修」「建替え」の費用に相違があるのはなぜか。	○本計画に掲載している公共施設の更新費用は、計画的な保全等により施設の長寿命化を図り、40年大規模改修・80年更新とした場合のものとなります。一方で、公共施設等総合管理計画に掲載している公共施設の更新費用は、30年大規模改修・60年更新とした場合のものとなりますが、試算の考え方は同じです。 ○試算の際の大規模改修・建替えの㎡あたり単価については、施設分類別の一般的な単価を用いているため、更新費用見込みの目安として信頼できる数値であると考えています。
10	公共施設の更新費用の見込み	財源不足よく分かります。生まれて34年間育ったまちですから、私は藤井寺市が大好きですし、もっとよくしたいと常に思っています。まずは、議員数を減らして下さい。不信任できないため、議席が多すぎる。	○取組みにご理解をいただきありがとうございます。将来を見据えたまちづくりの観点で、公共施設の再編を進めていきたいと考えています。 ○議員数の点についてはご意見として承らせていただきます。
11	公共施設の更新費用の見込み	これまでの市政運営で計画的な維持管理の不十分さが今現れてきています。維持管理に経費がかかりますが、経費の的確な見直しと最新の工法で経費の節減も検討してください。安易な「民間活力」の導入ではありません。	○施設の計画的な維持管理や経費の削減については、公共施設等総合管理計画の26ページから29ページに見直しの方針を記載しておりますが、公共施設マネジメントの取組の柱の1つとして位置付けており、重要な視点であると考えています。今後は方針に基づいて的確な見直しを行いながら維持管理を行いたいと考えております。 ○民間活力の導入については、サービスやコスト面等から、その効果を十分に検討したうえで、進めていきます。
12	公共施設マネジメントの取組の柱	藤井寺市は小規模で、人口も少ないことから、施設保有量を他自治体とも比較して適正水準を確認の上、縮減を図る必要がある。（財政の厳しさを思えば、自治体間内でもトップランナー並みにするべき）	○取組みにご理解をいただきありがとうございます。藤井寺市の施設保有量については、類似団体や近隣市と比較すると必ずしも多くありませんが（公共施設等総合管理計画8ページ）、持続可能性の観点で、将来世代に大きな負担を残さないようにするとともに、市民サービスの向上のため、公共施設の再編を進めていきたいと考えています。
13	数値目標	割合や延床面積の表現にとどめているが、イメージが湧きにくい。反発を恐れてのことと思われるが、例えば○○施設何個分などの、市民に伝わりやすい表現が必要だったと感じる。	○数値目標のイメージの例としましては、15%の縮減（19,500㎡）とは市役所本庁と市民病院を合わせた程度の規模となります。
14	数値目標	30年間で15%縮減することを数値目標と設定した根拠が示されていないのはなぜか。	○数値目標の設定の考え方については、今後の人口動向及び財政の観点から試算を行い設定しております。考え方については、公共施設等総合管理計画の25ページに記載しております。
15	数値目標	施設保有量15%削減には反対である。なぜなら、これでは子育て安心のまち藤井寺や、にぎわいのあるまち藤井寺は実現できない。部分的には、例えば医師公舎等の廃止については賛成するが。	○数値目標は、総合計画で掲げる「住みたいまち」「訪れたいまち」「住み続けたいまち」を実現するため、真に必要な施設やサービスは何かをあらためて整理し、ご意見のように経営者の視点で施設保有量や維持管理面を見直すための目標値として設定しているものです。
16	数値目標	「施設保有量（延床面積）を30年間で15%縮減」とありますが、財政面からの計画で住民の暮らし、経営者・事業者の立場からの視点がありません。住めるまち、住みたくなるまち、人が集まるまちの計画を市民目線で進めるべきです。	○数値目標は、上位計画である公共施設等総合管理計画策定時に設定したのですが、その際にも、市民説明会やパブリックコメントを実施いたしました。決して、市の考えだけで進めているのではない点をご理解ください。 ○本計画の9ページ、35ページにも記載していますが、

	項目	ご意見	市の考え方
			今後、個別施設の再編を進めていく際には、市民や民間等との協働でさらなる検討を進めてまいります。
17	機能（サービス）と公共施設の再編	「④市民ニーズを反映する」について、「医療保健機能」「行政窓口機能」「子育て支援機能」についてのみ「機能の最適な提供方法を踏まえて」とあるが、何を以て「最適な」と判断するのか、その根拠が示されていない。	○市民ニーズの反映の観点で、8 ページでは市民アンケート調査で優先度の高かった3 機能について記載していますが、10 ページではすべての機能について、長期的な視点でみた機能（サービス）のあり方と最適な提供方法について検討した結果をお示ししています。 ○機能の最適な提供方法については、長期的な視点でみた機能（サービス）のあり方の検討を踏まえて「行政主導型」「公設民営型」「民間主導型」に分類しています（10 ページに記載）。 ○今後、個別施設の再編を進めていく際には、その効果を十分に検討したうえで判断していきます。
18	機能（サービス）と公共施設の再編	「②利用状況、コストを踏まえる」について、コストがかかるから施設の縮減や廃止をするのでは営利企業と同じになります。国や自治体の運営は、無駄を省くのは当然ですが、暮らしと住民自治に必要な施設は確保すべきです。そのための税制度であり地方交付税制度です。公共施設の再編で地域格差が出たり、暮らしにくいまちになっては困ります。	○施設が建設された時期から年月が経つ中で、現在の市民ニーズに的確に対応できなくなっている可能性がありますので、今回の取組みにおいて施設・機能のあり方について検証していく必要があると考えています。
19	まちづくりと公共施設の再編	「②地域性を踏まえる」について、「身近な生活圏域におけるまちづくり」のうち生活圏域についての規定がないのはなぜか。	○身近な生活圏域については、9 ページの地域区分図に示している4 つの地域を想定しています。
20	まちづくりと公共施設の再編	「④市民等と協働を進める」について、「意見交換や情報共有の場を設け」としているが、市民等との協働に関するこの計画策定に至るまでの総括等がないのはなぜか。	○本計画の策定における意見交換や情報共有の場として、48、49 ページにも記載しておりますが、市民説明会やパブリックコメント、学識経験者・公募市民・関係団体から組織される検討委員会での議論等により、協働を進めてまいりました。今後、個別施設の再編を進めていく際には、市民や民間等との協働でさらなる検討を進めてまいります。
21	まちづくりと公共施設の再編	「③まちづくり施策と連動する」について、都市計画マスタープランの人口フレームなど基本的なところで連動してください。	○本計画については、人口ビジョンや都市計画マスタープランのように目標人口を設定していない点をご理解ください。今後、確実に人口減少が進むことが想定される中で、公共施設についてどうあるべきかを検討していくための計画であることへのご理解をお願いします。その上で、今後の人口動向については、市民説明会においてもご説明させていただきましたが、公共施設マネジメントの考え方の前提となる持続可能性の観点から、国立社会保障・人口問題研究所から出されている人口推計値を採用しています。ご意見のように、他の取組み等において状況が変化する場合については、適宜見直しをいたします
22	長期的な視点でみた機能（サービス）のあり方	「保健」と「医療」の提供形式を分ける理由が示されていないのはなぜか。	○「保健」については、健康相談・診断、保健指導など、行政主導で提供する必要がある機能と考えています。一方で、「医療」については、病院や診療所など、民間においても既に同様の機能が提供されているため、民間との役割分担の検討が可能であると考えています。
23	長期的な視点でみた機能（サービス）のあり方	民間主導型に、「子育て支援」を含める理由の明示がないのはなぜか。	○「子育て支援」「医療」については、幼稚園や保育所、病院など、民間においても同様の機能（サービス）の提供が可能であるため、長期的な視点でみた機能（サービス）のあり方として「民間主導型」としておりますが、
24	長期的な視点でみた機能（サービス）のあり方	「今後は公民連携を充実させ、民間を活用した機能の提供を進めていく必要がある」について、「公民連携」や「民間の活用」などの表記で、今後の公共施設の機能のあり方を記述することに違和感がある。「公民連携」や「民間の活用」で、公共施設の存続を図るという考え方に危うさを禁じ得ない。	該当する機能（サービス）を保有する施設すべてを「民間主導型」で提供するという意味ではない点をご理解ください。 民間と連携した機能（サービス）の提供については、市と民間の役割、施設・機能のあり方を含め、サービスやコスト面等から、その効果を十分に検討したうえで、進めていきます。
25	長期的な視点でみた機能（サービス）のあり方	類似の民間施設の利用をすすめると大きく打ち出していますが、地方自治体の機能がしっかりしていて責任をもって施設運営ができて、そこに魅力を感じて民間も進出してくれば、藤井寺の魅力にもありますが、市が責任をもたずに民間に	○いただいたご意見を踏まえ、誤解を招かないように、

	項目	ご意見	市の考え方
		何でも委ねるのでは、地方自治を放棄するものです。とりわけ、子育て、教育、福祉、医療の分野は重要です。	10 ページの表の下に「長期的な視点でみた機能（サービス）のあり方を示したもので、該当する機能（サービス）を保有する施設すべてを上記の提供形式とするのではなく、市と民間の役割、施設・機能のあり方を含め、サービスやコスト面等の効果を十分に検討したうえで、進めていきます。」と追記します。
26	長期的な視点でみた機能（サービス）のあり方	民間主導型に「子育て支援」「医療」を位置づけていますが、これは行政主導型に位置づけるべきである。将来を担う子どもの関係、市民の命にかかわる関係は、行政が責任を持つべきである。	
27	長期的な視点でみた機能（サービス）のあり方	「子育て支援」「医療」を民間主導型とするのは納得できません。市民の要望が強い分野です。民間がダメとは言いませんが、基本的には行政が主導すべきです。充実してほしい分野なのに「民間主導」は残念な提案です。	
28	個別施設の再編の方向性（幼稚園）	13 ページに「平成 28 年 4 月より、道明寺幼稚園と第 2 保育所が道明寺こども園に移行」とあるが、道明寺こども園を計画の対象として記載していないのはなぜか。	○本計画の対象施設については、公共施設等総合管理計画の対象 66 施設としています。道明寺こども園は、その当時に整備途上であったため計画対象外としています。今後、計画見直しのタイミングで計画対象に含めてまいりたいと考えています。
29	個別施設の再編の方向性	基本的に利用者が限られているものは、受益者負担とすべきであるし、藤井寺市民だけでは十分活用できない施設は、周辺自治体と連携することで負担軽減が図れると考える。	○利用料金の見直しについては、公共施設等総合管理計画の 29 ページにも記載しておりますが、市民ニーズを的確に把握し、適宜見直しを検討してまいります。 ○周辺自治体との連携については、ご意見の負担軽減とあわせて、サービスの充実・効率化の可能性等、その効果を十分に検討したうえで進めていきます。
30	個別施設の再編の方向性	保育所、市民プール、図書館を無くさないで欲しい。	○個別施設の再編の方向性は現時点での方向性を示したものとありますが、決定事項ではありません。今後、将来のまちづくりや人口動向、財政状況、市民ニーズ等を十分に踏まえて、さらなる検討を進めてまいりますのでご理解をお願いいたします。
31	個別施設の再編の方向性（幼稚園・保育所）	子育て関係施設は、築後 40 年以上となっており、それだけ放置していたということである。長期計画は立てていなかったのか。	○これまでの施設の維持管理を見直し、平成 27 年度に公共施設保全計画を策定いたしました。今後は長期計画に基づいて、施設の計画的な改修・修繕に努めてまいりますのでご理解をお願いいたします。
32	個別施設の再編の方向性（幼稚園・保育所）	今の子育て世代に老朽化を押しつけるのは間違い。公共施設マネジメント委員や市職員、その他意味あるのか疑問。	
33	個別施設の再編の方向性（幼稚園・保育所）	民間を活用した機能の提供とありますが、未来の藤井寺を担う子ども達を市が守り育てていくのが当然だと考えます。藤井寺市が責任を持って「公立」でぶれない保育・教育をもって子ども達を育てていきたいものです。	
34	個別施設の再編の方向性（幼稚園・保育所）	4 つの地域で考えるのなら、4 つのどの地域にも公立施設があるべきだと考えます。子育て（働く）世代にとって、子育て支援・保育・教育が充実した「住みたいまち」「住み続けたいまち」になっていかなければ、藤井寺市の未来はないと思います。	
35	個別施設の再編の方向性（幼稚園・保育所）	小学校単位のコミュニティが基本と思います。藤井寺市は小学校区に公立保育所・幼稚園があつて「子育てするなら藤井寺」と自慢できるものなのに短期的に見直し対象になっているのは少子化対策としても逆行ではないか。また、コミュニティは防災や支え合いでも大事です。校区に集える場所をつくる、子ども・お年寄り…誰でも気軽に気兼ねなく利用できる居場所づくりなども（子ども食堂・お年寄りランチなどもできるような）。減らすことばかり考えないで、もっと住みよいまちにする、そんな計画にして欲しいです。	○公共施設の再編は、今後の人口動向、財政状況など厳しい社会経済情勢においても、公共施設の維持管理を工夫することで市民ニーズに適切に対応することを目的としています。ご意見のように、ただ減らすことだけが目的ではなく、様々な手法を検討しながら少しずつ施設を集約する中で市民の皆様の満足度を向上していきたいと考えていますので、ご理解をお願いいたします。
36	個別施設の再編の方向性（幼稚園）	幼稚園の入園率が悪いのは、3 年保育を実現していないからである。3 年保育を実現すれば、入園率も上がるし、子育て安心の街も実現できるのではないか。	○幼稚園・保育所については、重点取組として 16 ページにも記載していますが、待機児童解消を含む就学前教育・保育サービスの充実のため、市が掲げる教育・保育の方針、将来的な児童数や他の子育て施設の整備の動向等を踏まえ、幼稚園・保育所のあり方や適正な施設数を
37	個別施設の再編の方向性（幼稚園）	短期に廃止する園が複数上がっています。幼稚園は 3 年保育、給食、預かり保育など強い要求があるにもかかわらず、市はそれに応えてきませんでした。その結果、利用率が低くなっているのです。この原因を見ずに見直しをする方針を出したのですね。これは市の怠慢です。公立の幼稚園を充実してこそ、教育委員会のいう「幼児教育の充実」ができるのではありませんか。	

	項目	ご意見	市の考え方
38	個別施設の再編の方向性（保育所）	短期に廃止・見直しが複数あります。待機児童の解消は待ったなしで、この方向性が全くありません。これでは「住みたいまち」になりません。ふじみ緑地に導入しようとしている保育所も民間保育所のようなのですが、公立保育所が充実していることが、藤井寺の特徴であり、信頼につながってきた歴史があります。それは、行政が責任をもって進めてきた保育行政で、保育所の給食があり、信頼される保育士さんあつてのことです。このような公立保育所があるから民間保育所との質の高い連携が出来るのではないのでしょうか。	検討してまいりますのでご理解をお願いいたします。 ○39ページ以降に掲載している「継続」「改善」「見直し」「廃止」の区分については、36ページに掲載している施設評価（定量的な数値等を用いた評価）による判定結果であり、計画策定の途中経過であることをご理解ください。11ページに記載のとおり、施設評価の後に市の政策や重点施策、市民意向を反映した総合評価を実施しております。 ○ブクンダ公園については、周辺に複数の施設が立地していることから、将来的に一体的な整備・活用を検討していくものですが、都市公園としての位置付けを十分に踏まえる必要があると考えています。
39	個別施設の再編の方向性（保育所）	(2) 目指す姿に向けた課題の「保育所は、定員充足率が100%を超えている施設が多く、現在は待機児童が発生している」について、「待機児童が発生している」としながら、「待機児童」を解消する具体的な記述がない。	
40	個別施設の再編の方向性（保育所）	とにかく待機児童をなくす。長期計画ではなく、目の前の問題を解決してください。	
41	個別施設の再編の方向性（保育所）	保育サービスの充実は、10ページにあるように民間施設の利用ではありません。民間に委託しないでください。本市の目指すまちづくりは「住みたいまち」「訪れたいまち」「住み続けたいまち」と4ページにもあります。子育て世帯が、藤井寺から転居していき、また転入も減るでしょう。もっと子どもに重きを置き、保育・教育にこそお金をかけて、子育てしやすいまちにすれば、他市から移り住む人たちが増え、結果的に目指すまちづくりにつながると思います。また、ブクンダ公園を公園でなくすことはやめて下さい。ただでさえ公園が少ない藤井寺市。「複合的に」としていますが、公園は子どもたちや市民のイベントで使えるような形でしっかり残してください。	
42	個別施設の再編の方向性（市民総合会館（本館））	市民総合会館の大ホールを再編する計画のようであるが、まず利用率の出し方が問題である。多分コマごとに出していると思うが、これは一日単位で出さなければ意味がない。又、大ホールの分割なんてどうすればいいのか知りたい。	○市民総合会館の稼働率は、一日単位で貸出コマ数（午前・午後・夜間）を算出し、年間利用可能コマ数を年間利用コマ数で割った数値となっています。 ○市民総合会館（本館）大ホールの有効活用については、ご意見のようにホール部分を一体的に利用するのか、分割利用できるのかについても、個別施設の再編を進めていく際にさらなる検討を進めてまいります。
43	個別施設の再編の方向性（市民総合会館（本館））	稼働率が低いと、有効活用とありますが、例えば健康増進施設とするならば、中高年の方の利用を見込んだとしても市民総合会館（本館）の立地条件が駅から遠いので、駐車場の拡大と循環バスの増発がないと利用者が増えないのではないかと考えます。	○ご意見のとおり、施設へのアクセス性を高めるための、循環バスや駐車場等についても検討が必要であると考えています。
44	個別施設の再編の方向性（市民総合会館（本館））	市民アンケートにおいて、施設利用状況が26.6%と高いとなっているが、どこが高いのか理解できない。	○市民アンケート調査の施設利用状況については、市内の公共施設を相対的に評価して25%以上の方が利用している施設を「高」と表示しています。
45	個別施設の再編の方向性（市民総合会館（本館））	市民総合会館（本館）は必要ないので、即見直し希望。大ホール稼働率14.6%と低く、開催されているイベント（催し物）が、市民の為にほとんどない。	
46	個別施設の再編の方向性（市民総合会館（本館））	一部借地にも関わらず、維持する意義がわからない。	○市民総合会館（本館）の大ホールについては、18ページにも記載しておりますが、稼働率や設備更新の費用、借地料などを含め、サービスやコスト面等から、その効果を十分に検討したうえで、施設の有効活用のための機能の見直し検討を進めていきます。いただいたご意見は、今後の検討の参考とさせていただきます。
47	個別施設の再編の方向性（市民総合会館（本館））	おそらく稼働率が低い。特に大ホールは14.6%と低いのになぜ手放さないのでしょうか。39ページにもあるように、設備更新に見込まれる約9億円こそ無駄です。つぶしても困る人はほとんどいません。	
48	個別施設の再編の方向性（市民総合会館（本館・分館））	市民総合会館大ホールなどは、近隣市に類似施設があり、利用可能としていますが、市政運営や市民の文化活動が継続・発展できるのか、保障はありません。にぎわい創出のための再編にこれが上げられるのは何とも悲しい限りです。市民総合会館（分館）について、老朽化、耐震化、稼働率から機能集約としていますが、市の東側に貸館の機能がありません。変わるもの	○市民総合会館（分館）については、18ページにも記載しておりますが、本市がコンパクトな市域であるという特性や稼働率、耐震性、老朽化などを含め、サービスや

	項目	ご意見	市の考え方
		を提供すべきです。	コスト面等から、その効果を十分に検討したうえで、施設・機能の見直しの検討を進めていきます。いただいたご意見は、今後の検討の参考とさせていただきます。持続可能性の観点で、将来世代に大きな負担を残さないようにするとともに、今後の市民サービスの向上のため、公共施設の再編を進めておりますので、ご理解をお願いいたします。
49	個別施設の再編の方向性(市民総合会館(分館))	稼働率だけでなくささないで欲しい。なぜ稼働率が悪いのか。市民総合会館(分館)はエレベータがなく、日曜日は休み、申し込みに市民総合会館(本館)に行かなくてはならない。また、防音は無いに等しい。東部には会館は必要ですので、なくさないでください。市民総合会館(別館)は貸室そのものが減り、小さな会議室がありません。	○市民総合会館(分館)について、現施設に耐震化、エレベータ設置、その他の老朽化対策を行う場合の検討も行ってきましたが、敷地、建物形状を踏まえると、技術的な課題が多く、仮に技術的課題をクリアしても建替えに匹敵するほど多額の費用を要することが想定されます。そのような点から、本計画において再編の方向性をお示ししていることにご理解をお願いいたします。
50	個別施設の再編の方向性(市民総合会館(分館))	分館の機能をさらに充実させる立場での検討が地理的にも必要であると思います。高齢化がうたわれているのにエレベータもない。耐震を強めて、市民がさらに使用しやすい方向で改善してほしい。詩吟などのサークルも利用されていますが、階段のみは本当にきついと思います。	○市民総合会館(分館)について、現施設に耐震化、エレベータ設置、その他の老朽化対策を行う場合の検討も行ってきましたが、敷地、建物形状を踏まえると、技術的な課題が多く、仮に技術的課題をクリアしても建替えに匹敵するほど多額の費用を要することが想定されます。そのような点から、本計画において再編の方向性をお示ししていることにご理解をお願いいたします。
51	個別施設の再編の方向性(市民総合会館(分館))	耐震性を理由とした市民総合会館(分館)の廃止について、現地に大、小は別として、新たにその機能を有した施設を確保すべきである。計画素案では現在の機能を市民総合会館(本館)及び市民総合会館(別館)に集約するとしているが、土師ノ里地域からの利用は高齢者にとって困難となり、市民の利用が逆に低下します。現在の市民が利用できる施設は、3地域(市民総合会館(本館)、生涯学習センター、市民総合会館(分館))にありバランスが取れています。災害などが発生すると、拠点となるのが公共施設であり、財源がないからつぶすというのは安易な発想である。	○市民総合会館(分館)について、現施設に耐震化、エレベータ設置、その他の老朽化対策を行う場合の検討も行ってきましたが、敷地、建物形状を踏まえると、技術的な課題が多く、仮に技術的課題をクリアしても建替えに匹敵するほど多額の費用を要することが想定されます。そのような点から、本計画において再編の方向性をお示ししていることにご理解をお願いいたします。
52	個別施設の再編の方向性(市民総合体育館(市民プール))	プールは廃止される方向にあるようですが、小学生を持つ親として小学校では8月に1度もプールがないため、市民プールを良く利用していました。プールの利用率が悪いのは、プール自体が老朽化しているのもあると思うので、スポーツセンターに新しく目玉になるようなプール(利用料を引き上げて)と図書館など人が集まる施設にして欲しい(図書館も本の数が少ないので、市民としては残念です)。	○市民総合体育館の市民プールについては、19ページにも記載しておりますが、現時点では利用が減少傾向にあり、維持管理の費用も高くなっています。そのため、市が保有する必要性等を含め、サービスやコスト面等から、その効果を十分に検討したうえで、機能の見直しを進めていきます。いただいたご意見は、今後の検討の参考とさせていただきます。本市では、持続可能性の観点で、将来世代に大きな負担を残さないようにするとともに、今後の市民サービスの向上のため、公共施設の再編を進めておりますので、ご理解をお願いいたします。
53	個別施設の再編の方向性(市民総合体育館(市民プール))	温水プールとして、高齢者も若者も自由に利用できるように努力していただきたい。	○市民総合体育館の市民プールについては、19ページにも記載しておりますが、現時点では利用が減少傾向にあり、維持管理の費用も高くなっています。そのため、市が保有する必要性等を含め、サービスやコスト面等から、その効果を十分に検討したうえで、機能の見直しを進めていきます。いただいたご意見は、今後の検討の参考とさせていただきます。本市では、持続可能性の観点で、将来世代に大きな負担を残さないようにするとともに、今後の市民サービスの向上のため、公共施設の再編を進めておりますので、ご理解をお願いいたします。
54	個別施設の再編の方向性(老人福祉センター)	市民の利便性向上のため、市東部及び西部の複数施設への移転とありますが、藤井寺市をコンパクトな市と考えるならば、藤井寺駅前(新しくできるイオンの中)にその施設をつくれれば利便性も上がり、複数の施設をつくる必要はないのではないかと思います。もしくは市民説明会の際に話がありましたが、藤井寺市内の町内会の会館を利用し、もっと利便性が向上する方法を考えて欲しいです。	○様々な主体と連携したサービスの提供については、既存施設、民間施設や地区会館などの活用の可能性を含め、サービスやコスト面等から、その効果を十分に検討したうえで、進めていきます。いただいたご意見は、今後の検討の参考とさせていただきます。
55	個別施設の再編の方向性(老人福祉センター、生涯学習センター)	高齢者等支援機能を提供している老人福祉センターや生涯学習センターは、駅や幹線道路から遠い。逆に近い必要性があるのか。	○現在、老人福祉センターと生涯学習センターで提供している高齢者等支援機能は、高齢化の進展に伴い市民ニーズが高まることが想定されるため、市民の利便性が高い場所で機能を提供することで、市民サービスの向上が図られると考えています。
56	個別施設の再編の方向性	世界文化遺産登録に向けて機能の充実とあるが、もっと具体的に記載してほしい。	○生涯学習センターや史跡城山古墳ガイダンス棟において、百舌鳥・古市古墳群の世界文化遺産登録に向けて、情報発信機能などを充実させていくことを想定しています。いただいたご意見を踏まえて、17ページの説明文に「情報発信機能等の充実」と修正します。
57	個別施設の再編の方向性(小学校、中学校)	これからの年少人口の減少(H57にH22の41%減少)を思えば、学校は統廃合すべき。幼保一体に留まらず、小中一貫化などが教育の充実には必要である。通学の不便さ等は、スクールバス導入などにより現状の施設を維持するよりも経費が削減できるはず。	○重点取組として23ページにも記載していますが、様々な教育活動の実現のため、将来の児童数・生徒数の動向、地域の拠点であること等を踏まえ、本市における学校のあり方や適正な施設数を検討することとしています。いただいたご意見は、今後の検討の参考とさせていただきます。
58	個別施設の再編の方向性(小学校、中学校)	小中学校の再編は、全学年少年数学級の実施や、地域社会の充実と切り離すことはできません。都市計画マスタープランの人口フレームや、地域の人口密度が大きく変化することはないとすることと併せて慎重に計画すべきです。地域から学校がなく	○重点取組として23ページにも記載していますが、様々な教育活動の実現のため、将来の児童数・生徒数の動向、地域の拠点であること等を踏まえ、本市における学校のあり方や適正な施設数を検討することとしています。いただいたご意見は、今後の検討の参考とさせていただきます。

	項目	ご意見	市の考え方
		なれば、地域社会の有り様がくずれます。	
59	個別施設の再編の方向性（藤井寺市民病院）	コスト面、行政負担面から広域化や公民連携、PFIなどの手法が出ていますが、安易な移行はすべきではありません。とりわけ、市民病院は藤井寺の目玉です。市が責任を持って地方自治の充実に努めてください。公共施設はそのための施設です。	○府や近隣市町、民間と連携したサービスの提供については、サービスの充実・効率化の可能性を含め、サービスやコスト面等から、その効果を十分に検討したうえで進めていきます。いただいたご意見は、今後の検討の参考とさせていただきます。
60	個別施設の再編の方向性（藤井寺市民病院）	藤井寺市民病院は、公営の施設として残すべきであり、新たに市民が望んでいる産科を新設すべきである。民営というのは、採算重視となり、市民が必要とする科などが廃止される危険性がある。	
61	個別施設の再編の方向性	(5) 再編のための重点取組の「様々な主体との連携体制」について、「様々な主体」の具体的な記述がない。「様々な主体」は何を想定しているのか、理解を促す記述を加えるべき。	○様々な主体については、30ページにも記載していますが、府や近隣市町、民間を想定しています。
62	再編による効果試算	各施設で再編の取組効果を試算されているのを拝見し、財政が厳しい中で再編による効果が大きいと感じた。是非とも、先送りせずに進めてもらいたい。	○取組みにご理解をいただきありがとうございます。いただいたご意見は、今後の検討の参考とさせていただきます。
63	公共施設再編後のまちのイメージ	北西地域について、「民間子育て支援施設と商業施設との複合施設」「民間商業施設の誘致にも成功した複合施設」とあるが、複合施設について具体的な記述がない。これでは、複合施設を万能薬として、公共施設の再編が進み、まちづくりは展開できると述べているに等しい。	○複合施設について、現時点では施設の規模、整備手法など、具体的な事項は確定していないため、子育て支援施設や商業施設との複合のような例示のみに留めています。
64	公共施設再編後のまちのイメージ	文章の使い回しは、その地域のことを気にかけている感じがしない。	○重点取組として16、23ページにも記載していますが、本市における学校・幼稚園のあり方や適正な施設数等を検討した上で、地域を考慮したまちのイメージを示していく必要があると考えています。今後の検討事項であり、現時点で決定事項ではないため、そのような表現としていくことをご理解ください。
65	公共施設再編後のまちのイメージ	「学校園の統合・多機能化」について、北西地域、南西地域、北東地域、南東地域のすべての地域に同様の記述がある。9ページのまちづくりと公共施設の再編の「②地域性を踏まえる」との整合性が問われる。	
66	市民等との協働による再編の推進	個別施設の再編を実行する際は、市民と問題意識を共有し、ワークショップや市民説明会などを設けると記述されていたが、とても良いことだと思う。市民の意見をよく聞いていただき、市民にとって本当に必要な使いやすい施設づくりをお願いしたい。	○取組みにご理解をいただきありがとうございます。今後個別施設の再編を進めていく際には、市民や民間等との協働でさらなる検討を進めてまいります。
67	再編による財源の確保	「民間への売却・貸付」「公民複合施設の整備」などを例示しているが、いずれも財源の確保の確実な担保にはならない。いずれか、またはいずれもが不調となった場合、財源確保について別の方途はあるのか。	○財源の確保については、公共施設等総合管理計画の29ページにも記載しておりますが、国や府等の補助制度の活用や、広告の掲出、ネーミングライツの販売、施設利用料金の見直し等が考えられます。あらゆる方策を検討しながら、財源の確保に努めてまいりたいと考えていますので、ご理解をお願いいたします。
68	全体	計画素案そのものの問題点は、財源がないから公共施設を廃止、統合、売却といったことに収斂されていますが、そのまゝに、本市の目指すまちづくりの「住みたいまち」「訪れたいまち」「住み続けたいまち」をしっかりと考えたものになっているのか非常に疑問である。安易な方向に流れると、「住みたくないまち、住み続けられないまち」となり、人口の減少に歯止めがかからないこととなり、市の目指すまちづくりにならないのではないのでしょうか。まず、市民の皆さんがどんなまちづくり、どんな施設が必要なのか、アンケートなどで集約し、そのために行政が財源確保のため、どれだけ汗を流すのかが求められているのではないのでしょうか。	○公共施設の再編は、今後の人口動向、財政状況など厳しい社会経済情勢においても、公共施設の維持管理を工夫することで市民ニーズに適切に対応することを目的としています。ご意見のように、ただ廃止、統合、売却することだけが目的ではなく、様々な手法を検討しながら少しずつ施設を集約する中で市民の皆様の満足度を向上していきたいと考えていますので、ご理解をお願いいたします。 ○上位計画である公共施設等総合管理計画及び本計画の策定において、市民アンケート（平成26年11月）、施設利用者アンケート（平成28年6月）をそれぞれ実施しており、その際のご意見を計画に反映しています。
69	全体	財政負担の軽減を主たる目的に「将来のまちづくりの方向性を踏まえた施設の統廃合、複合化、機能の集約など効果的な再編を進める」とありますが、これによって将来（近い将来も含めて）市民の暮らしがどうなるのか、みえてくるのは子育ても住民自治も社会福祉面も藤井寺に住むのが不安になることばかりです。財政難は何に起因するのか。克服には何が必要なのかを明確にせず、人口減と税収が増える見込みがないなど、現象面だけをみているではありませんか。地方自治の位置と役割を最大限発揮する方策は何かを示すべきです。	○本市では、持続可能な経営の観点で、次の世代に大きな負担を残さないようにするとともに、今後の市民サービスの向上のため、公共施設の再編を進めておりますので、ご理解をお願いいたします。

	項目	ご意見	市の考え方
70	全体	施設の縮減に応じて、市職員も削減するのか（人件費削減）。	○施設の縮減や管理・運営等の見直しにより、管理運営経費（人件費等）の削減だけでなく、公共施設等総合管理計画の29ページにも記載しておりますが、人員配置や業務内容なども合わせて検討していく必要があると考えております。
71	全体	まずは、何かを始めて欲しい。反応は必ずあるので、今後の取り組みの参考になると思う。ノウハウを積み重ねていき、成功事例を作り増やしていくことが再編計画への高い評価になる。	○取り組みにご理解をいただきありがとうございます。いただいたご意見は、今後の検討の参考とさせていただきます。